令和７年度

シラバス

～第２学年の学習について～

上尾市立上平中学校

第２学年　国語科

１　国語科の学習で目指すこと

○　国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

・国語に対する関心・意欲を高める。
・話す力、聞く力、書く力、読む力を育成し、伝え合う力を高める。
・言葉に対する認識を深め言葉の力を付ける。
・物の見方や考え方を養う。

【知識・技能】
①常用漢字を読んだり、文や文章の中で使い慣れたりすること。
②話や文章の種類と、その特徴について理解を深めること。
③敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うこと。
④情報の信頼性の確かめ方を理解し、使うこと。
⑤歴史的背景などに注意して読むことを通して、その世界に親しむこと。

【話すこと・聞くこと】
①相手意識、目的意識、場面意識をもって話したり、聞いたりする態度を身に付けること。
②目的や場面、自分の立場に応じて分かりやすく伝わるように、表現を工夫すること。
③進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり、深めたりすること。

【書くこと】
①目的や意図に応じて題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認して文章を構成すること。
②表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなどして、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるよう工夫すること。

【読むこと】
①文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。
②文章を読んで考えを広げ、人間、社会、自然などについて自分の考えを持つこと。

２　学習教材及び授業の進め方

使用教材	教科書　・国語２　（光村図書） ・中学書写　（光村図書） 副教材　・よくわかる国語の学習２　（明治図書） ・単元別漢字２　（秀学社） ・イラスト国語文法　（光村教育図書）	持ち物	・教科書、ノート、筆記用具 ・副教材、国語辞典 ・書写の道具 ・授業中指示のあったもの

授業の進め方

①　本時の課題、学習範囲の確認（学習の見通しをもつ）
②　本文の音読（文章教材）　内容の確認、解説（言語教材）
③　個人や少人数班での読解（文章教材）　問題演習（言語教材）
④　課題の解決、解説（文章教材）　課題の確認（言語教材）

学習に関する心構え

①　文章教材に取り組むときは、必ず音読をします。すらすら読めるようにしましょう。
②　自分の考えを問う場や発表する場がたくさんあるので、ただ聞くだけでなく、自分の考えが持てるように見通しをもって授業を受けましょう。
③　ノート作りを大切にしてください。黒板に書かれた内容だけでなく、メモや振り返りを書いて、次の学習へ生かせるように工夫しましょう。
④　話合い活動がたくさんあります。積極的に話し合うともに、相手の話をよく聞いて自分の学習に生かしましょう。
⑤　家庭学習も大切にしましょう。一番大切なのは教科書の音読です。教科書や読書用の本、新聞など、

どんな文章でもすらすら読めるようにしましょう。次に漢字や語句の練習です。そして、副教材のワークなどの問題を解きましょう。

３　学習内容とねらい

	学習内容（【】内は主たるねらいの観点）
１学期	・見えないだけ【読む】 ＜１広がる学びへ＞ ・アイスプラネット【読む】 ・枕草子【読む】【知識】　（自分流「枕草子」を書こう【書く】） ・多様な方法で情報を集めよう　職業ガイドを作る【書く】【知識】 ・熟語の構成【知識】 ＜２多様な視点から＞ ・クマゼミ増加の原因を探る【読む】 ・思考のレッスン１　具体と抽象【知識】 ・魅力的な提案をしよう　資料を示してプレゼンテーションをする【知識】【話す】 ・文法への扉１　単語をどう分ける？【知識】 ＜情報社会を生きる＞ ・メディアを比べよう　・メディアの特徴を生かして情報を集めよう【読む】【知識】 ＜３言葉と向き合う＞ ・短歌に親しむ　・短歌を味わう【読む】【知識】（短歌を創作しよう【書く】【知識】） ・言葉の力【読む】 ・言葉１　類義語・対義語・多義語【知識】 ・言葉を比べよう　もっと「伝わる」表現を目ざして【書く】【知識】 ＜読書生活を豊かに＞ ・読書を楽しむ　・翻訳作品を読み比べよう【読む】【知識】

２学期	＜４人間のきずな＞ ・盆土産【読む】 ・字のない葉書【読む】【書く】 ・聞き上手になろう【話す】【知識】 ・表現を工夫して書こう【書く】【知識】 ・［推敲］表現の効果を考える【書く】【知識】 ・言葉２　敬語【知識】 ・漢字２　同じ訓・同じ音をもつ漢字【知識】 ＜５論理を捉えて＞ ・モアイは語る――地球の未来【読む】 ・思考のレッスン２　根拠の吟味【知識】【書く】 ・根拠の適切さを考えて書こう　意見文を書く【書く】【知識】 ・［討論］異なる立場から考える【話す】【知識】 ・立場を尊重して話し合おう　討論で多角的に検討する【話す】【知識】 ・音読を楽しもう　月夜の浜辺【読む】 ＜６いにしえの心を訪ねる＞ ・源氏と平家　・音読を楽しもう　平家物語【読む】【知識】 ・扇の的――「平家物語」から【読む】【知識】 ・仁和寺にある法師――「徒然草」から【読む】【知識】 ・漢詩の風景【読む】【知識】

	＜７価値を語る＞ ・君は「最後の晩餐」を知っているか　・「最後の晩餐」の新しさ【読む】 ・魅力を効果的に伝えよう【書く】【知識】 ・文法への扉２・走る。走らない。走ろうよ。【知識】 ＜読書に親しむ＞ ・研究の現場にようこそ【読む】

３学期	＜８表現を見つめる＞ ・走れメロス【読む】【書く】 ・文法への扉３　一字違いで大違い【知識】 ・構成や展開を工夫して書こう　「ある日の自分」の物語を書く【知識】【書く】 ・言葉３　話し言葉と書き言葉【知識】 ・漢字３　送り仮名【知識】 ・国語の学びを振り返ろう　テーマを決めて話し合い、壁新聞を作る【知識】【話す】【書く】 ・木【読む】

４　学習評価の観点と評価規準等

評価の観点	評価規準・評価方法
①　知識・技能	①音声、語句、語彙、文法、漢字などに関する基礎や国語の特質を理解し、知識を身につけることができたか。 ②敬語や情報の正確さについて考え、適切に使うことはできたか。 ③歴史的背景などに注意しながら古典を読み、親しむことができたか。 （評価方法） ・小テストや定期テスト ・授業中の取り組みや発言内容 ・ノートやワークシートの記述内容、作品の内容
②　思考・判断・表現 【話すこと・聞くこと】	①話したり、聞いたりする中で、 自分のものの見方や考え方を深めることができたか。 ②目的や場面に応じ、説得力のある表現の仕方に心がけ話したり聞き取ったりすることができたか。 （評価方法） ・授業中の取り組みや発言内容 ・聞き取りテスト ・ノートやワークシート、その他提出物へのメモや記述の内容
【書くこと】	①たくさんの材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして書くことができたか。 ②論理の展開を工夫して、説得力のある文章を書くことができたか。 （評価方法） ・定期テスト ・ノートやワークシートの記述内容、作文の内容 ・授業中の取り組み（推敲作業など）

【読むこと】	①目的や意図に応じてさまざまな文章を的確に読みとることができたか。 ②書き手の論理の展開の仕方をとらえながら文章を読み取り、内容の理解に役立てることができたか。 ③読むことを通して自分の意見をもつとともに広い範囲から情報を集め、効果的に活用できたか。 （評価方法） ・授業中の取り組みや発言内容 ・小テストや定期テスト ・ノートやワークシートの記述内容
③　主体的に学習に取り組む態度	国語に対する関心を深めながら授業に参加できたか。 ①積極的に自分の意見や考えを発言できたか。 ②他人の意見をしっかり聞き、自分の考えを深めることができたか ③授業の中で、進んで話し合ったり、工夫して書いたり、読書ができたか。 ④国語の学習に真剣に取り組み生活に生かしていこうとしたか。 （評価方法） ・授業中の取り組み方や発表 ・ノートやワークシートの記述内容 ・話し合い活動への取り組み方 ・振り返りシートによる自己評価

第２学年　社会科

１　社会科の学習で目指すこと

本校の社会科では、「社会的事象について気付いたり、まとめたりして表現する力」の育成を目指している。そのために、次の2つの活動を積極的に授業の中に取り入れている。

①様々な資料（史料）から特徴をつかもうとする活動
②互いに意見を交わし、それを土台に考える活動

これらの活動を基盤にして、積極的に社会的事象に関心を持ち、意欲的に考え、表現する力を身に付ける。また、「資料（史料）に真剣に向き合うこと」、「教えあったり、伝えあったりして学びを高めること」、「学びの成果を発表し、互いに認め合うこと」を目指していく。

２　学習教材及び授業の進め方

使用教材	教科書　新しい社会地理（東京書籍） 新しい社会歴史（東京書籍） 中学社会科地図（帝国書院）	持ち物	＜地理＞ 教科書、地図帳、ノート、ワーク ＜歴史＞ 教科書、地図帳、ノート、ワーク
授業の進め方			
①予習を通して、学習内容の予備知識を得る。 ②本時の課題を把握する。 ③個人、グループで社会的事象について、調べたり、話し合ったりする。 ④調べたり、話し合ったりしたことをまとめたり、発表したりする。 ⑤教師の説明を聞き、要点を把握する。 ※４～６時間程度を一単元として、まとめや確認をする。			
学習に関する心構え			
①授業規律を大切にしましょう。私語をしない、友達の意見を聞く、ノートを書くなどの基本的なことをしっかり行いましょう。 ②授業後は、学んだことをノートにまとめるようにしましょう。 ③一単元を終えたら、復習をしましょう。ワークや問題などを解いておくのもよいでしょう。 ④わからないことは教科書や地図帳などを使って、自分で調べる力をつけましょう。 ⑤ニュースや新聞などをチェックして、社会的事象に関心をもちましょう。 ⑥定期テスト前は、次のことを必ず行いましょう。 １．テスト範囲の教科書を読む　２．ノートの要点を確認する ３．重要用語は説明できるようにする　４．ワークの問題などは繰り返し解く			

３　学習内容とねらい

	学習内容	学習のねらい
１学期	＜地理的分野＞ 第３編　第１章～第２章 ＜歴史的分野＞ 第４章　１節～３節	・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付ける。 ・日本の人口や資源、エネルギー問題について考察する。 ・日本と世界の交通、物流、通信などのつながりの特色をまとめる。 ・ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつくられたことを理解する。 ・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。 ・産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。

２学期	＜地理分野＞ 第３章　１節～７節 第４章 ＜歴史的分野＞ 第５章　１節	・日本の地域的特色と地域区分の学習を踏まえ、日本の諸地域の地域的特色を捉えるためのさまざまな視点に関心をもつ。 ・日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究する。 ・各地方の地域的特色や地域の課題を理解する。 ・地域に見られるさまざまな事象が、自然環境や人口と都市・村落、産業、交通・通信、生活・文化などの視点によって整理できることを理解する。 ・地域の実態や課題解決のための取組を理解する。 ・欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させて、アジアへ進出したことを理解する。

３学期	＜歴史的分野＞ 第５章　２節～４節	・開国とその影響などを基に、人々の生活が大きく変化したことを理解する。 ・明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。 ・日清・日露戦争、条約改正などを基に、我が国の国際的な地位が向上したことを理解する。

４　学習評価の観点と評価規準等

評価の観点	評価規準・評価方法
①　知識・技能 　地理的・歴史的事象に関する基礎的な知識を身に付けているか。 　資料から必要な情報を選択、活用し、まとめることができるか。	（評価方法） ・定期テストの知識技能を問う問題 ・小テスト　など
②　思考・判断・表現 　多面的、多角的に考察することができるか。 　日本の諸地域を比較し、共通性や特殊性を説明したり、判断したりできるか。 　資料を読み取り、適切な判断をしたり、考察したりすることができるか。	（評価方法） ・課題の取組（振り返りシート） ・発表の工夫　発表における表現方法 ・定期テストの思考力・判断力・表現力を問う問題　など
③　主体的に学習に取り組む態度 　歴史的・地理的事象に関心をもち、主体的に学習に取り組めているか。	（評価方法） ・授業の取組 ・発表 ・提出物（振り返りシート）　など

第２学年　数学

１　数学科の学習で目指すこと

授業内での課題や問題に対して、既習内容との関連性を見つけ、課題解決や問題解決に向けて率先して自分から考えることを目指す。その中で、計算、関数、図形などへの理解を深め、数学的な思考を身につけるとともに、新たな課題を発見する能力を育てる。

２　学習教材及び授業の進め方

使用教材	・教科書　未来へひろがる数学２（啓林館） ・ワーク ・プリント	持ち物	・筆記用具　・ノート ・定規　・コンパス ・のり　・はさみ

授業の進め方

○ 学習課題を的確に把握し、 課題に対して前向きに取り組む。
　・疑問に思ったことや、分からないことを解決する努力をする。
　・学習課題に対して多面的に観たり考えたりする力をつける。
○ 自分の良いところを伸ばし、苦手なところにも挑戦する。
　・分かったこと・課題を解決できたことに自信を持つ。

学習に関する心構え

○ チャイムが鳴るまでに授業の準備を終え、着席して待つ。また、授業の準備を忘れない。
○ 板書されたこと・気づいたことなどをノートに工夫してまとめておく。
○ 先生の話や友だちの発表をしっかり聞く。
○ ノート・ワークなどの提出物は，提出期限を守る。
《家庭学習》　○ 予習・復習をしっかりする。
　　○ 宿題・提出物は途中式をかいて、しっかり仕上げる。

３　学期ごとの学習内容とねらい

	学習すること	学習のねらい
第１学期	１章　式の計算 ２章　連立方程式	○文字を用いて式に表現し活用する能力を伸ばし、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。 ○連立二元一次方程式について理解し､それを用いることができるようにする。

第 2 学 期	３章 一次関数 ４章　平行と合同 ５章　三角形と四角形	○一次関数の概念を理解し、グラフをかいたり、直線の式を求められるようにする。 ○一次関数のグラフと２元１次方程式、連立方程式の解とグラフとの関係を明らかにする。 ○図形の基本的な見方や考え方、性質を理解する。 ○合同な図形の性質を理解し、証明の意義と推論の進め方を理解する。 ○ 二等辺三角形の性質や直角三角形の合同を証明することができる。
第 3 学 期	 ６章　確率 ７章　データの比較	○平行四辺形の定義や性質を理解し、図形の性質や辺の長さや角度を求めることができる。 ○樹形図や表を使って、場合の数を求め、確率を求められるようにする。 ○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。

４　学習評価の観点と評価規準等　※全教科において３観点の評価となります。

評価の観点	評価規準・評価方法
①　知識・技能	・単元ごとの用語・計算の決まり・定理等を正しく理解できたか。 ・数学の基本的な技能を高めることができたか。 （評価方法） ・小テストや定期試験 ・授業内での課題プリント
②　思考・判断・表現	・学習事項を使って課題を解決することができたか。 ・常によりよい解決方法を考え課題に取り組んでいたか。 （評価方法） ・小テストや定期試験 ・授業内での課題プリント ・課題レポート ・発表内容
③　主体的に取り組む態度	・意欲的に学習することができたか。 ・与えられた課題に対して、粘り強く取り組んでいたか。 （評価方法） ・授業内での課題プリント ・課題、振り返り・自己評価レポート ・ワークなどの提出物の内容 ・授業中の様子

第２学年　理科

１　理科の学習で目指すこと

自然の事物・現象に進んでかかわり、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

２　学習教材及び授業の進め方

使用教材	・教科書「自然の探求　中学校理科２」 ・資料集「カラーブック理科資料」 ・授業用プリント（随時配布） ・ワーク「よくわかる理科の学習２」 ・小テスト プリント（随時配布）	持ち物	・教科書　　・授業ノート（A４） ・資料集　　・ファイル ・のり （実験時：ハンカチ、 必要に応じて保護メガネ）

授業の進め方
①　自然の事象に関連した学習内容を知る。 ②　自然の事象における基礎的な知識を身につける。 ③　見通しをもった観察・実験を通して、自然の事象について調べる技能を身につけるとともに、科学的に考え、それを表現する。 ④　学習を見通しをもって振り返り、自分自身の学習の仕方を調整しながら、次の授業に備える。
学習に関する心構え
①　学習する範囲の教科書を読み予習・復習を行う。 ②　教科書やノートで学習を振り返り、適宜単元プリントなどの練習問題等を行い、知識を定着させる。 ③　自分自身の学習を見通しをもって振り返り、良い面や課題点を明らかにし、次の学習に生かす。 ④　本、テレビ、インターネットなどを通して、日頃から自然の事象に関心をもち科学的に考えようとする。

３　学習内容とねらい

	学習内容	学習のねらい
１学期	＜２　生物の体のつくりとはたらき＞ ・１章　生物の細胞と個体 ・２章　植物の体のつくりとはたらき ・３章　動物の体のつくりとはたらき	・生物の体のつくりとはたらきについての観察、実験などを通して、次の事項を身につける。 ①　生物の体のつくりとはたらきとの関係に着目しながら、生物と細胞、植物の体のつくりとはたらき、動物の体のつくりとはたらきを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ②　身近な植物や動物の体のつくりとはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現する。

2学期	＜1　化学変化と原子・分子＞ ・1章　化学変化と物質の成り立ち ・2章　いろいろな化学変化 ・3章　化学変化と物質の質量	・化学変化についての観察、実験などを通して、次の事項を身につける。 ①　化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、物質の成り立ち、化学変化、化学変化と物質の質量を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ②　化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。
	＜4　電気の世界＞ ・1章　電流と電圧 ・2章　電流と磁界 ・3章　静電気と電流	・電流とその利用についての観察、実験などを通して、次の事項を身につける。 ①　電流、磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、電流、電流と磁界について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ②　電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流のはたらき、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現する。

3学期	＜3　気象とその変化＞ ・1章　気象の観測 ・2章　空気中の水の変化 ・3章　低気圧と天気の変化 ・4章　日本の気象 ・5章　大気の躍動と恵み	・身近な気象の観察、実験などを通して、次の事項を身につける。 ①　気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象観測、天気の変化、日本の気象、自然の恵みと気象災害について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ②　気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現する。

4　学習評価の観点と評価規準等

評価の観点	評価規準・評価方法
①　知識・技能	●自然の事象に対しての知識を身につけている。 ●観察や実験における技能を身につけている。 （評価方法） ・小テストや定期試験 ・観察や実験への取り組みのレポート ・授業中の発言やノートの記述内容
②　思考・判断・表現	●自然の事象や実験結果を知識･技能を活用して分析して解釈することで、そこから分かる規則性や関係性を見い出し、適切に表現している。 （評価方法） ・小テストや定期試験　・観察、実験レポートの考察 ・授業中の発表　・小グループでの話し合い活動
③　主体的に学習に取り組む態度	●自然に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 （評価方法） ・授業中の発表　・ノートの記述内容 ・観察、実験への取り組み　・観察、実験レポート ・振り返りによる自己評価

第２学年　英語科

１　英語科の学習で目指すこと

既習事項を運用し、聞き手を意識して
自分の思いや考えを即興で語ることができる生徒の育成

２　学習教材及び授業の進め方

教材	・教科書（SUNSHINE ENGLISH COURSE 2） ・エイゴラボ（正進社）	持ち物	・教科書　・ノート ・ファイル　・エイゴラボ（ワーク）

授業の進め方

〇単語力を高める。「見る」「読む」「書く」等を繰り返す。　ノートに書いて満足しないように。
〇文法を理解する。「授業で理解する」→「重要表現の例文を１つ覚える」→「問題を解く」
〇読解力と聞き取る力を高める。「読む（意味がわかる）」→「できる限り速く読む」
〇表現力（話す力・書く力）を高める。「SV を意識し、学んだ単語や文法を用いて話す・書く」

学習に関する心構え

☆「読める・意味がわかる」→「すらすらと読める」→「問題を解く」「書く」の順番
・単語学習は「見る」「読む」「書く」から選ぶ。ノートに書いて満足しないように。
・文法学習は「授業で理解する」「問題を解く」「間違いを見直す」わからなければ聞く。
・読解対策は「読める・意味がわかる」→「すらすらと読める」問題があるなら解く。
・聞き取りは発音（フォニックス）を意識してすらすらと読めるようにする。問題があるなら解く。CD があればオーバーラッピング・ディクテーション・シャドーイングをする。
・英作文対策は SV を意識して、「書ける単語や文法」を用いて書く。自分では〇つけができないので、先生に見せる。
・会話対策は、ミスを恐れず回数をこなす。授業でも家庭学習でも英語をなるべく多く使用する。スピーチ等の「発表」でも人と話す「やり取り」でも、回数をこなす。
・教科書の本文を筆写する、（本文を写したり、訳したり、訳を見て本文を再び書いたり）ワークに繰り返し取り組む、英語の歌を歌う、等を自主的に行う。

３　学習内容とねらい

	学習内容	学習のねらい
１学期	Program 1 New Start	・未来表現や動名詞の意味や働きの理解をもとに、予定や楽しんだことなどについて伝え合う技能を身に付けている。
	PROGRAM 2 Koshien Project in Africa	・接続詞の意味や働きの理解をもとに、自分が思っていることや過去のある時点にしたことなどについて伝え合う技能を身に付けている。
	Program3 Taste of Culture	・不定詞（名詞的・副詞的・形容詞的用法）の意味や働きの理解をもとに、したいことや行動の目的などについて伝え合う技能を身に付けている。

2学期	PROGRAM 4 Leave Only Footprints	・感情の原因を表す不定詞、must や have to ～の意味や働きの理解をもとに、うれしかったことやしなければならないことなどについて伝え合う技能を身に付けている。
	PROGRAM 5 Work Experience	・how to ～、〈look＋形容詞〉、〈give＋人＋もの〉の意味や働きの理解をもとに、やり方、人やものの様子などについて伝え合う技能を身に付けている。
	PROGRAM 6 High-Tech Nature	・比較表現の意味や働きの理解をもとに、身近な事柄について自分の考えを伝え合う技能を身に付けている。

3学期	PROGRAM 7 Unique Animals	・like を使う比較表現や〈teach［tell］＋人＋how to ～〉の意味や働きの理解をもとに、自分の考えを伝えたり、何かの仕方をたずねたりする技能を身に付けている。
	PROGRAM 8 A Hope for Lasting Peace	・受け身の意味や働きの理解をもとに、身の回りのものについて伝える技能を身に付けている。

4　学習評価の観点と評価規準等

評価の観点		評価の方法
知識・技能	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を理解しているか。 また、その知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けているか。	・単語テスト ・文法テスト ・リスニングテスト ・読解問題 ・リスニングしたことを話したり書いたりできるか ・読み取ったことを話したり書いたりできるか ・話し合ったことを再度話したり書いたりできるか ・絵やグラフを見て感じたことや読み取ったことを話したり書いたりできるか ・パフォーマンステスト （音読・暗唱・リテリング・ライティング・スピーキング・スピーチ・スキット等） ・定期テスト
思考・判断・表現	目的、場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合えるか。 また、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合えるか。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。 また、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか。	

第２学年　音楽科

１　音楽科の学習で目指すこと

・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
・楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、表現を伸ばし、創造的に表現する能力を高める。
・音楽に対する総合的な理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。

２　学習教材及び授業の進め方

使用教材	・中学生の音楽２・３上 ・中学生の音楽２・３下 ・中学生の器楽 ・コーラスフェスティバル	持ち物	・アルトリコーダー ・音楽ファイル ・筆記用具

授業の進め方

①歌唱活動
はじめに歌う時の姿勢や体の使い方を練習して体をほぐします。その後、発声練習を行うことで歌の基礎、基本を身につけていきます。
②器楽活動
リコーダーでは、基本的な指使いを身につけるため、音階練習などを行ってから、曲の練習をします。
③鑑賞活動
曲に対してどのように感じたのかを音楽の用語を用いて、言葉にしていきます。感じ取ったことを自分の言葉で表現出来るようにします。
④創作活動
リズム遊びからリズム創作にチャレンジしますので、工夫する気持ちを持ち、自分だけの音楽を作っていきましょう。

学習に関する心構え

①忘れ物は授業開始前に先生に申し出るようにしましょう。
②集中して授業に取り組みましょう。
③演奏中は、真剣に演奏に取り組みましょう。
④音楽が苦手でも、まずはやろうとしましょう。
⑤みんなで１つの音楽を作り上げる楽しみを味わいましょう。

３　学習内容とねらい

	学習内容	学習のねらい
１学期	・オリエンテーション ・歌唱活動 「夢の世界を」「夏の思い出」など ・鑑賞活動 「フーガト短調」 ・器楽活動 「ラヴァースコンチェルト」など	・級友とともに歌う喜びを味わい、学習への意欲・態度を育てる。 ・旋律のまとまりや曲の構成に気づいて表現する能力を育てる。 ・パイプオルガンの仕組みや響きを感得しながら、曲の構成について知り鑑賞する。 ・アルトリコーダーの高音の運指を理解して演奏する。

2学期	・歌唱活動 合唱祭の合唱曲 ・鑑賞活動 「交響曲第５番」 「アイーダ」	・合唱祭などの企画に携わりながらいろいろな合唱曲に取り組み、表現力や合唱を愛好する心情を育てる。 ・管弦楽の豊かな響きや楽曲の構成の特徴を感じ取りながら鑑賞する能力を育てる。 ・歌やオーケストラなどの音楽と舞台美術などが融合した総合芸術の魅力を味わい、その雰囲気を感じ取る心情を育てる。

3学期	・鑑賞活動 「勧進帳」 ・器楽、創作活動 ボディーパーカッション 歌唱活動 「卒業式歌」「三送会の歌」	・日本の伝統音楽の魅力や郷土の音楽の良さを味わい日本の音楽に親しむ心情を育てる。 ・速さや強さの変化による曲　想の変化を感じ取って表現したり、鑑賞したりする能力を育てる。 ・音の重なり方や構成を工夫してリズムを創作する。 ・音色や音の重なり方を理解してリズムアンサンブルをする。 ・歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌詞表現を工夫する能力を育てる。

４　学習評価の観点と評価規準等　※今年度から全教科において３観点での評価となります。

評価の観点	評価規準・評価方法
①　知識・技能	・曲想や音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表現している。 （評価方法） ・授業中の観察 ・実技テスト ・筆記テスト
②　思考・判断・表現	・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 （評価方法） ・ワークシート ・授業中の観察 ・筆記テスト
③　主体的に学習に取り組む態度	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 （評価方法） ・授業中の観察 ・ワークシート

第２学年　美術科

１　美術科の学習で目指すこと

①自然や身近なものなどのよさや美しさに対する関心を持つ心を育てる。
②感性や想像力を働かせ、自然や身近なものを観察し、良さや美しさを感じ取る力を身につける。
③自主的に表現意図に合う多様な表現方法を工夫し、美しく表す力を身につける。
④自然物、美術作品や生活の中の造形などに自主的に親しむ心を育てる。

２　学習教材及び授業の進め方

使用教材	・教科書　日本文教出版　美術　２・３上、下	持ち物	・色鉛筆、アクリルガッシュ、鉛筆（２Ｂ）、雑巾、他、題材によって異なる ・服装について 半袖・ハーフパンツ・ジャージ

授業の進め方
①　美術係は、学習カードを配布する。各自忘れ物をカードに記入する。 ②　授業で必要な用具を準備する。 ③　本時の学習目標を学習カードに記入する。 ④　学習目標に沿って制作する。 ⑤　５～10 分前に道具の片付けをして本時の振り返りを学習カードに記入する
学習に関する心構え
①　入退室や、始業終業のあいさつをしっかりと行う。 ②　話を良く聞き、本時の目標を理解する。 ③　授業準備を徹底する。（用具がなかったり、借り物であったりしては、自分の力は出しきれません。） ④　意欲的に制作する。（制作する姿勢が作品に表れます。本当によい作品は真剣な態度から生まれます。） ⑤　道具を大切に使う。 ⑥　作品などの提出期限を守る。 ⑦　美術の教科書を参考に題材の資料集めを自主的にこころがける。

３　学習内容とねらい

	学習内容	学習のねらい
１学期	・私自身を見つめて ・自由な視点で 風景を見つめる （奥行きの表現）	・自分の心の中を見つめ，自分らしさや個性から主題を生み出し，構図や表情などの効果を考え，絵の具や用具などの特性を生かし意図に応じて創意工夫して絵や立体で表現する。 ・普段とは違った視点から身近な風景を見つめ，感じ取ったイメージなどから主題を生み出し，構図の工夫や効果などを理解する。 ・遠近法の基礎的な語句や技法を理解し、その機能的な生かし方を考える。

2学期	・つくる、使う、 材料を味わう工芸（うつわのデザイン） ・仏像に宿る心 修学旅行に向けて	・使う人への気持ちや場面，楽しさなどから主題を生み出し，材料や用具の特性を生かし見通しを持って創造的に表す。 ・仏像彫刻の特色やよさや美しさに関心を持ち、作者の意図と美術文化の継承と創造について考え、見方や感じ方を深める。

3学期	・芸術としての漫画表現 ・あの日を忘れない 【ゲルニカ鑑賞】 ・林檎の素描	・印象的な場面や瞬間のイメージなどから主題を生み出し，構図，背景などの効果，意図に応じての表現など作品を鑑賞していく。 ・絵に込められた作者の訴えたいことなどに関心を持ち，造形的な美しさなどを感じ取り，社会における美術の力について考えるなどして，見方や感じ方を深める。 ・対象物の質感や特徴、美しさを基に主題を生み出し表現方法を工夫して絵に表現する。明暗から配色を考え、明暗表現の工夫をする。 ・全体から立体的表現の工夫をする。

4　学習評価の観点と評価規準等　※今年度から全教科において３観点での評価となります。

評価の観点	評価規準・評価方法
①　知識・技能	・題材により、基本的知識や技能を身に付け造形感覚や感性などを働かせ創意工夫し、創造的に表すことができているか評価する。 ・材料や用具の特性を生かし表現することができる。 （評価方法） ・ワークシート・作品
②　思考・判断・表現	・題材により、感じ取った特徴や美しさを主題に生み出し，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っている。 ・美術作品や文化遺産等に親しみ、感性や創造性を働かせて多様な表現の良さや美しさを感じ取り味わう。 ・自分や友達の作品を鑑賞し、造形的よさや美しさなど作者の心情や表現の意図と工夫を考え，見方や感じ方を広げている。 ・鑑賞カードに的確に記述している。 （評価方法） ・発想のプリントやアイデアスケッチ、作品の構想力、鑑賞カードの記述
③　主体的に学習に取り組む態度	・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく身近な材料の特徴や美しさなどを基に構想を練り，意図に応じて工夫し表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・作者の心情や表現の意図と工夫について考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 （評価方法） ・学習カードに目標を記載することと、振り返りの記述内容、発言 ・主体的に取り組む態度、見通しを持ち計画的に制作する。 ・資料の収集、提出物

第２学年　保健体育科

１　保健体育科の学習で目指すこと

「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。」という目標を達成するために、まず「学ぶ意欲」を高めていく。そのことで自ら進んで活動し、個人（グループ）の課題（目標）を持って授業に取り組めるようになると考える。そして、課題の解決をめざし、考え工夫する資質や能力を身につけ、健康・体力を向上させる。

【体育分野】

・年間を通して主運動に応じた準備運動を自分で考え、仲間と共に話し合って実施する。
・見学時は見学者カードを記入し、積極的な授業参加を図る。
・先生の指示をよく守り、安全に留意して運動する。
・種目の評価基準を設けたり、記録表をつけたりして、技能向上への意識を高める。
・コーチングや実技の撮影・振り返り等を行い、運動を行うコツをつかみ技能向上を目指す。
・種目の特性やルールを理解する。（体育理論含む）

【保健分野】

・授業で自分の身体や環境問題等について学習し、ワークを活用することにより深みを持たせる。
・単元テストを実施することにより、保健分野と体育理論の知識の定着をはかる。

２　学習教材及び授業の進め方

使用教材	・教科書　中学保健体育　（大修館書店） ・資料集　中学体育実技　埼玉県版（大修館書店） ・ワーク　中学保健体育の学習（大修館書店）	持ち物	・中学体育実技　・中学保健教科書 ・体育ファイル　・保健体育ワーク ・筆記用具　・水筒

授業の進め方

授業の進め方
①　授業で必要な用具を用意する。
②　体育委員は授業が始まる前に号令をかけ、整列して待つ見学、欠席、忘れ物の報告をする。
③　あいさつをして、準備運動をする。
服装について１　服装は半袖・ハーフパンツ。（運動するのにふさわしい着方をすること）
　　２　気温に応じた服装を可能とする。ただし、安全に配慮する。

※まず、授業を進めるにあたって必要なこと（準備・片付け・初歩的なルールなど）を覚える。基本的なこと（動作や技術、戦術など）を練習する。さらに先生や友達のアドバイスを参考にしながら、自分（たち）の課題（目標）を解決していくために、自ら進んで取り組み、考え・工夫したりしながら協力して練習や試合、記録計測をしていく。

学習に関する心構え
①自分の能力を精いっぱい発揮し、最後まで粘り強く取り組む。 ②日頃から健康管理に努め、積極的に授業に参加する。 ③指示をよく聞いて仲間と協力して活動（準備、片付け、練習など）し、周りの安全を考えて取り組む。 ④効果的で安全な活動をするため、基本的な事柄（服装や身なりを整えたり、運動種目規則を守るなど）に注意して取り組む。 ⑤服装は気温に応じた服装を自分で選択して着用する。 ※体調不良等、特別な理由がある場合はさくら連絡網で連絡する。 ⑥保健体育の教科書・実技の本・ワーク・ファイルは教室のロッカーにまとめておき、いつでも使えるようにする

３　学習内容とねらい

学期ごとの学習内容とねらい（体育分野）

	学習すること	学習のねらい
1学期	○体つくり ・体ほぐしの運動 ○陸上競技 ・ハードル走、走り幅跳び ○水泳 ・平泳ぎ、クロール、背泳ぎ、バタフライ	・自己の体に関心を持ち、体力や生活に適した課題を持って、心と体をほぐす運動を行う。 ・自己の能力や適正を知り、運動種目を選択して、記録に挑戦できる技能を身につけさせる。 ・自己の能力や適正を知り、運動種目を選択して、記録に挑戦できる技能を身につけさせる。
2学期	○体つくり ・体力を高める運動 ○ハンドボール バレーボール ○武道 ・剣道 ◯ダンス	・自己の体に関心を持ち、体力や生活に適した課題を持って運動を行い、体力を高める意欲を養う。 ・集団的スポーツの意義を理解させ、自分の得意な技能を習得させ、チームに貢献させていく。 ・武道における伝統的な行動様式を身に付けさせるとともに、対人的な技能を身につけさせる。
3学期	○バドミントン ソフトテニス	・対人的な技能を確実なものとし、練習や試合に応用できるようにさせる。

学習内容とねらい（保健分野）

	学習すること	学習のねらい
1学期	○健康的な生活と病気の予防 ・生活習慣病とその予防 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康	・生活習慣病を予防するためには、望ましい生活習慣を確立することが大切であることを理解させ、定期検診等の自己点検の重要性についても理解させる。
2学期	・薬物乱用と健康 ・喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけ ○傷害の防止 ・傷害の原因と防止 ・交通事故の現状と原因	・身体におよぼす様々な影響と依存性の強さを学習させ、健康のみならず生活基盤全体に重大な障害を与えることを理解させる。 ・危険を予測できれば事故や災害を防いだり、被害を最小限に抑えることができることを理解させる。

３学期	・交通事故の防止 ・自然災害に備えて ・応急手当の意義と基本 ・きずの手当	・けがをした人や病気で倒れた人がいたとこに、応急手当を知っていたら、けがの悪化を防いだり命を救ったりすることができることを理解させ、少しでも実施出来るようにさせる。

４　学習評価の観点と評価規準等

評価の観点	評価規準・評価方法
①　知識・技能	・各種目の基本的な技能が身についているか ・各単元における特性、技の名称や行い方を理解しているか （評価方法） ・技能テスト・観察・単元テスト
②　思考・判断・表現	・自己の課題を見つけられているか、自己の課題に応じた学習方法を選択できているか （評価方法） ・授業中の発言内容 ・学習カード ・レポートなど
③　主体的に学習に取り組む態度	・各単元の楽しさや喜びを味わおうと公正や協力を意識して積極的に取り組むとともに、健康・安全に留意して取り組めているか （評価方法） ・観察・学習カード

【第２学年　技術・家庭科】

技術・家庭科の学習でめざすこと

○　技術・家庭科は技術分野・家庭分野の２つから成り立っています。いずれも生活に必要な基礎的知識と技能を身に付けることにより、進んで生活を便利にしようと工夫し、豊かな生活を創造する能力を身につけ、実生活に生かしていける実践的な態度の育成を目指します。

・生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造しようとする実践的な態度の養う

学習教材及び授業の進め方について

使用教材	教科書　技術・家庭（開隆堂）	持ち物	・教科書・ファイル・筆記用具 ・ネームペン ・エプロン・バンダナ・マスク ・布巾　など
授業の進め方	**《授業について》** ・プリント、chromebook を使用して学習を進めます。 ・製作実習を行います。刃物や針、釘、発熱する物などを使用します。 ・班単位でグループ活動することがあります。 ・２時間続きの授業になります。 **《定期テストについて》** ２学期１回（中間）、３学期１回（学年末）合計２回の定期試験を行います。試験は総合問題です。各領域の出題比率は学期によって変わります。 **《家庭学習について》** 授業中に学習したことを定着させるために、積極的に家庭で実践するようにしましょう。		
学習上の注意	・積極的に授業に取り組みましょう。 ・授業準備は休み時間にしましょう。 ・提出物の期限は必ず守り、忘れ物をしないようにしましょう。 ・黒板に書かれた内容をプリントに写すだけでなく、メモや振り返りなどを書いてまとめましょう。 ・グループ学習では、自分の考え方を知ると同時に、他人がどのように考えているかを学習しましょう。		

学習評価の観点と評価規準等

	評価の観点（主なもの）	評価方法
知識・技能	①技術・家庭に関する用語を覚えたか。 ②技術・家庭に関する用語の説明ができるか。 ③しくみや工程を理解し、作業を効率良く進めることができる。 ④様々な技術を習得し、それらを活用することができる。	作業 作品 実技テスト 定期テスト（知識・技能部分）
思考・判断・表現	①技術について適切に評価できたか。 ②学んだ技術を生活の中で活用することができるようになったか。 ③製作に必要な道具を適切に選択できるか。 ④学び得たことから、よりよいものになるように改善及び修正を考えることができる。	プリント 作品 定期テスト（思考・判断力・表現力部分）
主体的に学習に取り組む態度	①進んで技術に関わり、主体的に理解し、技能を身につけようとしているか。 ②自分の新しい考え方や捉え方によって解決策を構想しようとしている。 ③提出物は抜けが無く、期限を守って提出できたか。	授業態度 プリント 作品・定期テスト 定期テスト（関心・意欲部分） 提出物

	学習計画
一学期	・生物育成技術について
二学期	・エネルギー変換について ・エネルギー変換実習 ・食生活 ・調理実習（肉・魚・野菜） ・実技テスト
三学期	・消費生活と環境
上記の学習を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」について学習します。	